



2021年中期ビジョンについて

2019年5月29日

古河電池株式会社

代表取締役社長 小野 眞一

私たちが目指す姿

- 海外成長 新商品 鉛蓄電池事業強化 人材育成の4点に注力

海外拠点の
安定的成長



次世代電池を
含む新商品開発を
通じたビジネス創出



基幹事業としての
鉛蓄電池事業の
収益向上



人材育成による
革新力の蓄積



本業での成長で、社会の期待に応えることにより
中長期的企業価値を向上させる

2021年中期ビジョン_基本方針と重点施策

- 海外**拠点の安定的成長と、基幹事業としての**鉛**蓄電池事業のさらなる強化を前提とし
新商品開発を通じたビジネス創出、**人材**育成による革新力の蓄積を徹底的に追求



海外拠点の安定的成長

- 既存拠点の販売力・製造力アップ
- 次拠点の開拓推進



次世代電池を含む**新**商品開発 を通じたビジネス創出

- マイルストーンを明確にし、事業本部との開発連携強化
- リチウムおよび次世代電池の開発、量産化



基幹事業としての**鉛**蓄電池事業 の収益向上

- 鉛蓄電池の低コスト化開発
- 量産化技術のさらなる追求

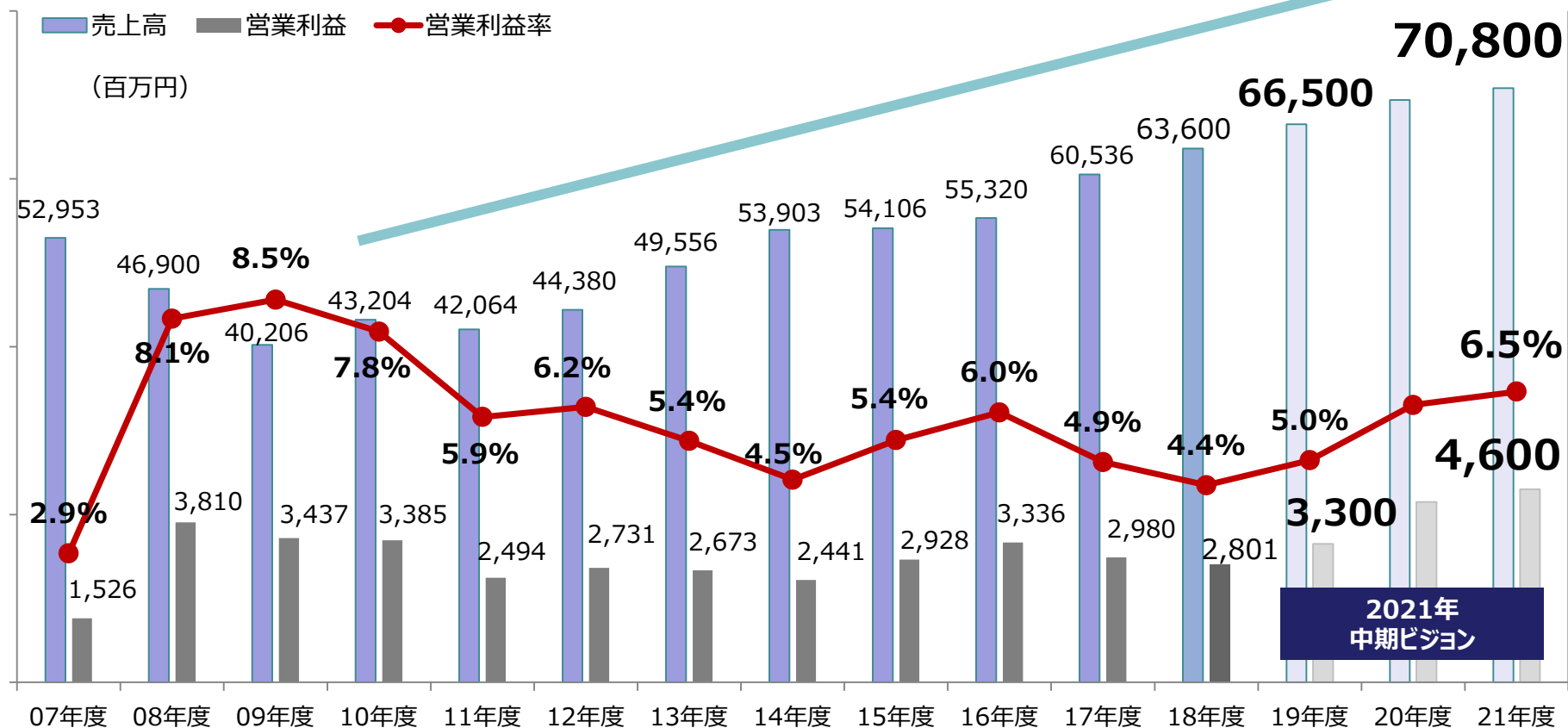


人材育成による革新力の蓄積

- 組織と評価制度の見直しおよびローテーション活性化
- 社外出向・社内MBA研修などの人材プロジェクトの制度化

2021年中期ビジョン_経営指標

**FB2030
ビジョン**

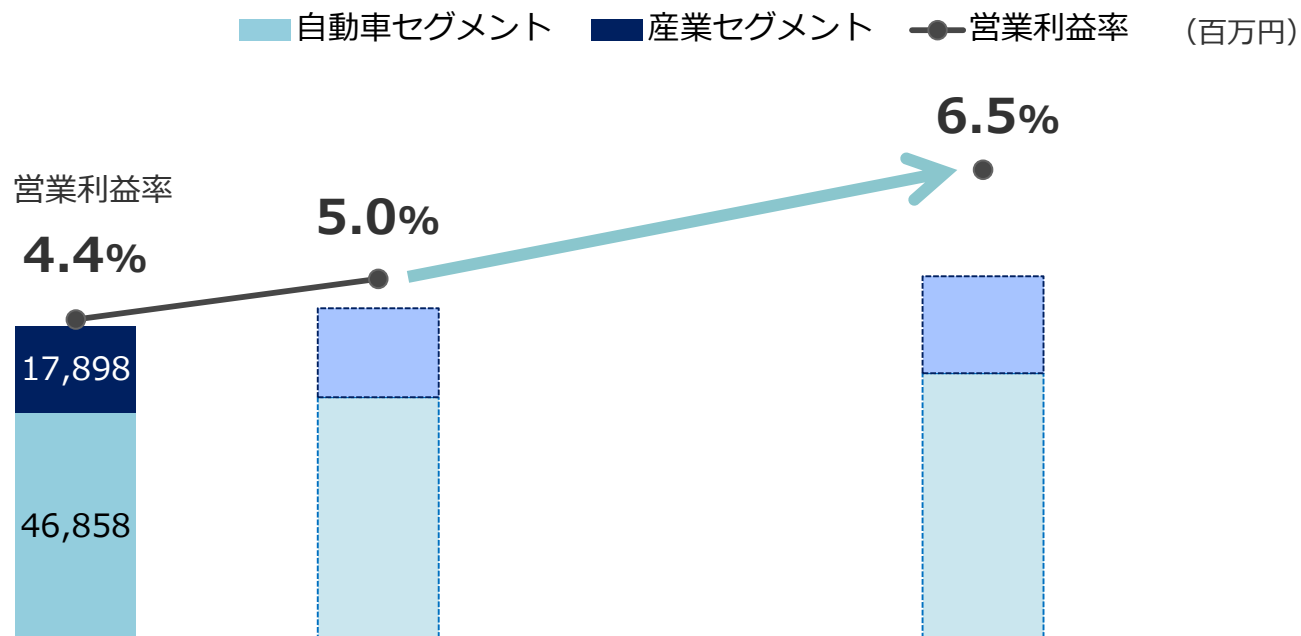


**2021年
中期ビジョン**

策定中のFB2030ビジョンに向けた “積極的かつ前向きな戦略・施策” の積み上げ期間

19-21年度 計画_連結

売上高の推移



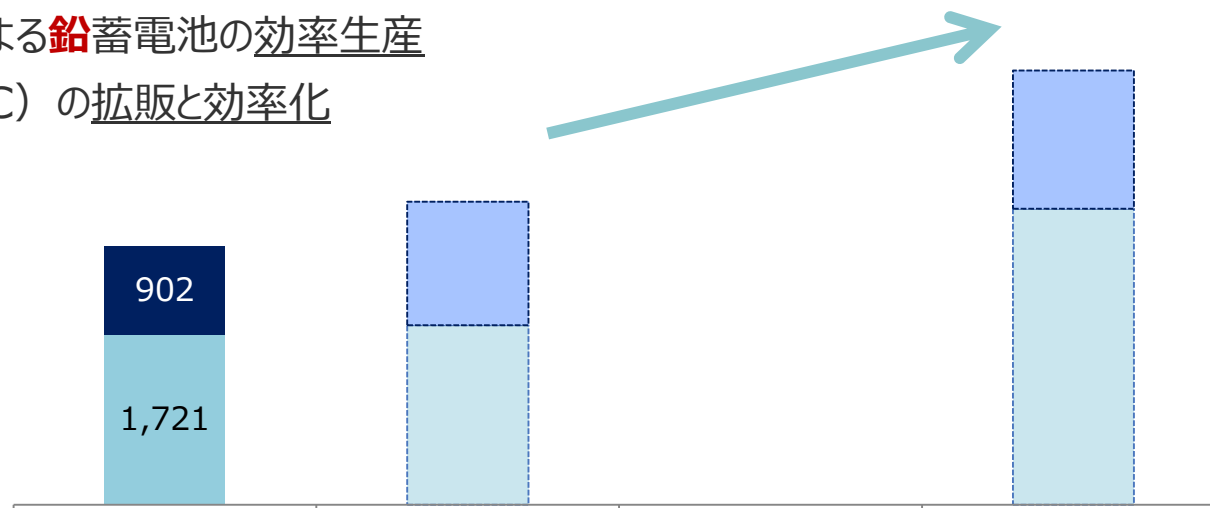
(単位：百万円)	18年度	19年度 (予想)	21年度 (計画)	18→21年度
売上高	63,600	66,500	70,800	+11.3%
営業利益	2,801	3,300	4,600	+64.2%
経常利益	2,698	3,100	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	2,267	2,400	—	—

19-21年度 計画_連結

● 営業利益の推移

- **インドネシア**子会社 (FIBM) の立ち上げ加速
- 国内**設備投資**による**鉛蓄電池**の効率生産
- **タイ**子会社 (SFC) の拡販と効率化

■ 自動車セグメント ■ 産業セグメント (百万円)



(単位：百万円)	18年度	19年度 (予想)	21年度 (計画)	18→21年度
売上高	63,600	66,500	70,800	+11.3%
営業利益	2,801	3,300	4,600	+64.2%
経常利益	2,698	3,100	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	2,267	2,400	—	—

19-21年度 計画_連結

• 増収増益の4つの要素

- 原価低減
- シェア拡大とラインナップ拡充に向けた体制構築
- 生産と販売の最適化

自動車&産業

コスト競争力強化
国内拡販

**FIBM
(インドネシア)**

立ち上げ加速

- プロモーション強化
- 原価低減活動の強化
- 品質力UP

新商品・新事業

リチウム&鉛
新商品リリース

- 差別化技術の深化
- 知財戦略の強化

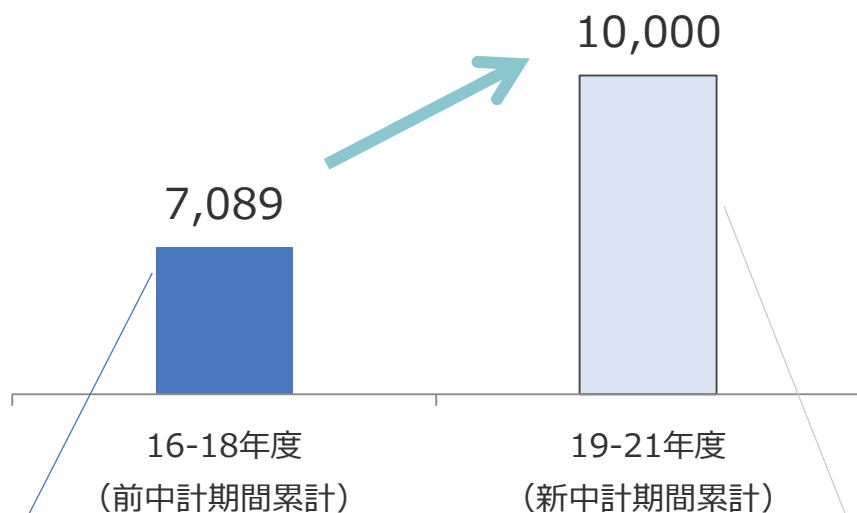
SFC(タイ)

さらなる事業拡大

- 新シリーズ拡充
- プロモーション強化

設備投資額・研究開発費

設備投資額

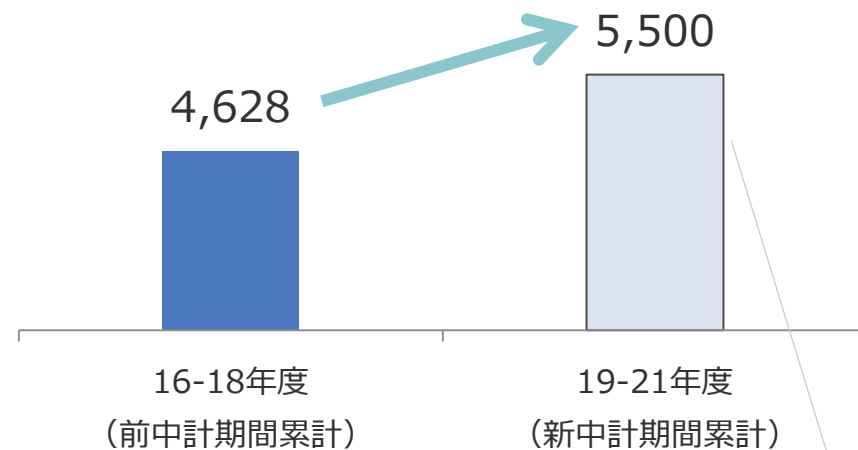


- 自動車鉛蓄電池の増産のための投資など

- 自動車鉛蓄電池・産業用蓄電池の効率生産
 - 製品構成の改善
- タイ子会社 (SFC) 自動車鉛蓄電池工場拡張
- 基幹システムのリプレイス
 - 経営基盤の強化 (中長期的)

研究開発費

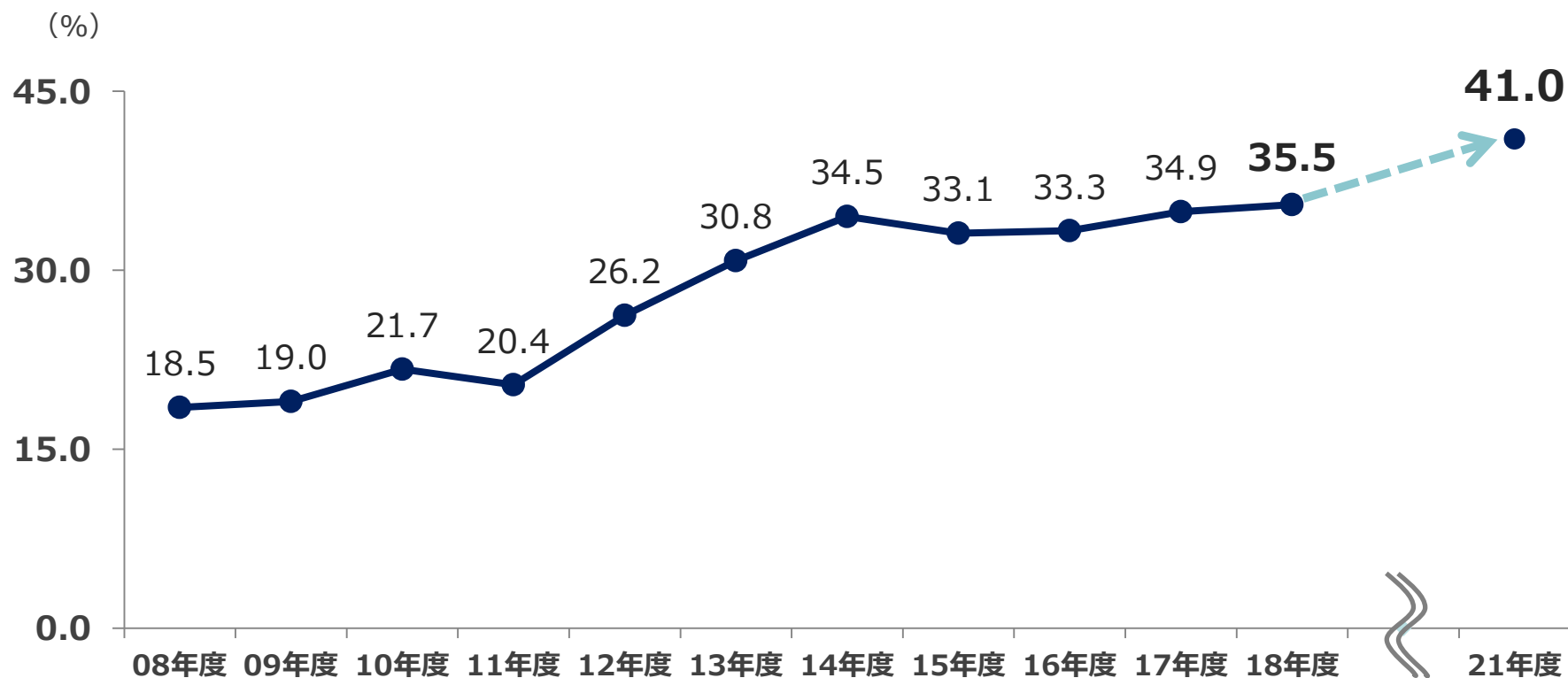
(百万円)



- 鉛蓄電池の収益力強化を実現する技術開発
 - コスト競争力強化
- 得意分野の市場展開を視野に入れたリチウムイオン電池の開発
- 次世代電池の研究加速

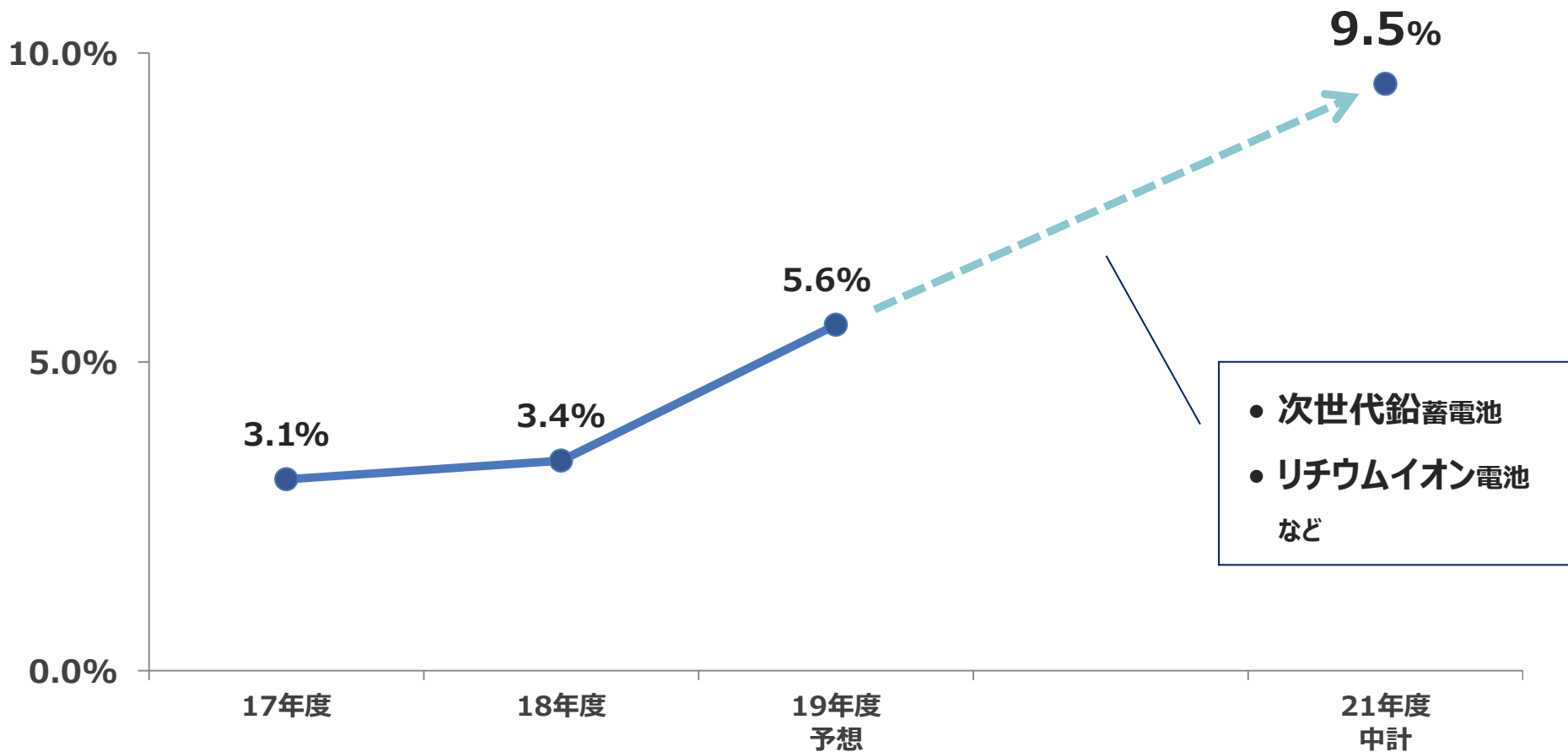
海外売上高比率

■ タイ子会社の堅調な推移に加え、**インドネシア子会社の立ち上げ加速**により着実な伸長を目指す



新商品売上高比率*

■ **自動車鉛蓄電池**の新商品が増加傾向。**産業・Mg・リチウムイオン**関連の伸びが肝



* 新商品：上市して5年未満の商品

新商品売上高比率：個別売上高に対する新商品売上高の比率

資本政策・株主還元方針

- 中長期的に企業価値を高めていくため、持続的な成長の糧となる**設備や研究開発への投資を継続**。成長投資と経営環境の変化への機動的対応および安定的な資金調達を可能とする、**健全な財務基盤**を確保
- 成長性と財務健全性との最適バランスを追求し、**安定配当**による株主還元の実現を目指す。「2021年中期ビジョン」の期間においては、**増配を優先**させる考え

[参考] 主なニュースリリース (18年度上期)

- 第69回 全国植樹祭ふくしま2018の開催に協賛 (Jun.13)
- 小惑星探査機はやぶさ2 リュウグウ到着に関するTV取材 (Jun.29)
- 秋田県大潟村で開催される「2018 WGC・ソーラーカー・ラリー」をサポート (Aug.8)
- アジアクロスカントリーラリー2018協賛 (Aug.9)
- インドの大手鉛蓄電池メーカーExide Industries社とウルトラバッテリーの製造・販売に関するサブライセンス契約を締結 (Aug.16)
- 古川淳シニア・フェロー、「The α/β Society」のメンバーに選定 (Sep.18)



[参考] 主なニュースリリース (18年度下期)

- 古河電池の開示資料における勘定科目の表示方法見直しが良い事例として「週刊経営財務」に取り上げられました (Oct.11)
- 古河電池、「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2018で「優秀賞」を受賞 (Dec.3)
- 古河電池が「かながわサポートケア企業」に認証されました (Dec.19)
- 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) より感謝状をいただきました (Jan.4)
- UltraBattery®が船舶ソーラーパワーシステム用としてシンガポールの大型貨物船に搭載されました (Jan.17)
- 古河電池、インドネシアで取締役会を開催 (Feb.6)
- 小惑星探査機「はやぶさ2」、2月22日にリュウグウへのタッチダウンに成功
～古河電池製リチウムイオン電池搭載～ (Feb.22)



イラスト：池下章裕

将来情報についての注意事項

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しており、主要なものとして以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・為替相場の変動による影響
- ・主要製品に使用される原材料の価格変動
- ・海外における政治的および社会的リスク
- ・取引先の業績悪化等
- ・自然災害の影響

なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。

(注) 当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。年度表記について、17年度は2018年3月期、18年度は2019年3月期（以下同様）を表しています。